NEC Express5800シリーズ Express5800/120Rg-1, i120Rg-1

3

ソフトウェア編

Express5800シリーズ用に用意されているソフトウェアについて説明します。

添付のCD-ROMについて

添付のEXPRESSBUILDER® CD-ROMには、本装置を容易にセットアップするためのユーティリティや各種バンドルソフトウェアが収録されています。これらのソフトウェアを活用することにより、本装置の機能をより多く引き出すことができます。

「EXPRESSBUILDER」CD-ROMは、本装置の設定が完了した後でも、OSの再インストールやBIOSのアップデートなどで使用する機会があります。なくさないように大切に保存しておいてください。

EXPRESSBUILDER

本装置

セットアップユーティリティ

EXPRESSBUILDER（215ページ）

ディスクアレイ管理ユーティリティ

- Power Console Plus（サーバ）（239ページ）
- Web-based Promise Array Manager（241ページ）
- MegaRAID Storage Manager™（サーバ）（238ページ）

システム管理ユーティリティ

- ESMPRO/ServerAgent（235ページ）
- エクスプレス通報サービス（242ページ）
- システム診断ユーティリティ（252ページ）
- オフライン保守ユーティリティ（285ページ）
- DianaScope（244ページ）

その他

各種オンラインドキュメント（HTML/PDF）

LAN

管理PC

セットアップユーティリティ

- EXPRESSBUILDER*1（215ページ）
- ExpressPicnic（226ページ）

システム管理ユーティリティ

- ESMPRO/ServerManager（243ページ）
- DianaScope（244ページ）

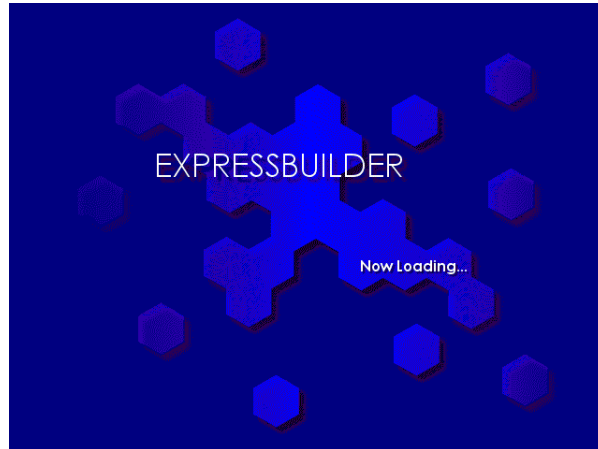
ディスクアレイ管理ユーティリティ

- Power Console Plus（管理PC）（246ページ）
- MegaRAID Storage Manager™（管理PC）（245ページ）

*1　コンソールレスで操作する場合。COMポートも使用可能。

オプションのディスクアレイコントローラを利用してディスクアレイの設定をするRAIDユーティリティはボード上のチップに搭載されています。これらのユーティリティの操作方法については、ボードに添付の説明書を参照してください。

EXPRESSBUILDER

「EXPRESSBUILDER」は、Express5800シリーズに接続されたハードウェアを自動検出して処理を進めるセットアップ用統合ソフトウェアです。EXPRESSBUILDERからOSをインストールする際には、インストール対象のハードディスクドライブ（またはディスクアレイの論理ドライブ1台のみ）だけを接続してセットアップしてください。

起動メニューについて

EXPRESSBUILDERには3つの起動方法があります。起動方法によって表示されるメニューや項目が異なります。

- **「EXPRESSBUILDER」CD-ROMから起動する**

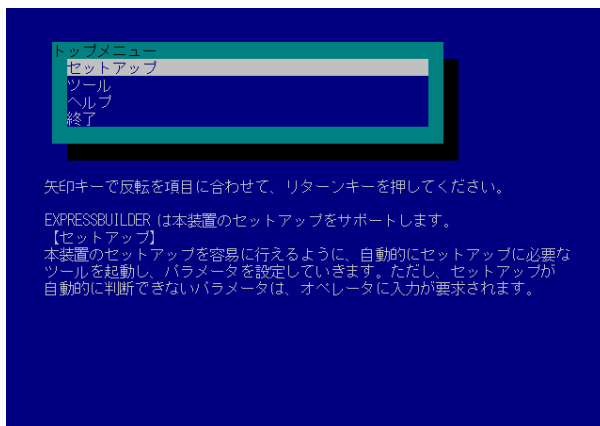
  EXPRESSBUILDERを本体のDVD-ROMドライブにセットして起動し、EXPRESSBUILDER内のシステムから起動する方法です。この方法でシステムを起動すると下に示す「EXPRESSBUILDERトップメニュー」が表示されます。

  このメニューにある項目から本装置をセットアップします。

- 本装置以外のコンピュータおよび他のExpress5800シリーズで起動しないでください。故障の原因となります。
- メニューの「シームレスセットアップ」を実行するとあらかじめインストールされているOSを消去します。OSもインストールし直す必要があります。
- リモートKVMコンソールでEXPRESSBUILDERを操作する場合、マウスは使用できません。キーボードを使用してください。

EXPRESSBUILDERトップメニューについてはこの後の「EXPRESSBUILDERトップメニュー」を参照してください。

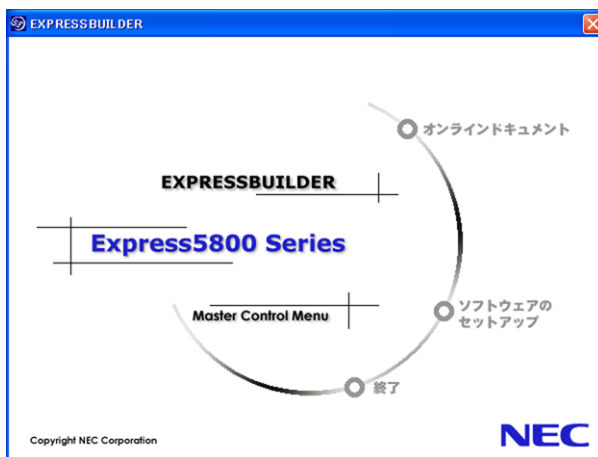
- **コンソールレスで「EXPRESSBUILDER」CD-ROMから起動する**

ファイル名「CSL_LESS.CFG」の「設定情報ファイル」を格納したフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入した状態でEXPRESSBUILDERから起動すると、LANかCOM（シリアル）ポートで接続している管理用コンピュータ（PC）の画面には、「トップメニュー」が表示されます。管理PCからこのメニューにある項目を使って本装置を遠隔操作をします。

本装置以外のコンピュータおよび他のExpress5800シリーズで起動しないでください。故障の原因となります。

トップメニューについてはこの後の「コンソールレスメニュー」を参照してください。

- **Windowsが起動した後にEXPRESSBUILDERをセットする**

  Windows(Windows 95以降、またはWindows NT4.0以降)が起動した後、CD/DVD-ROMドライブにEXPRESSBUILDERをセットするとメニューが表示されます。表示されたメニューダイアログボックスは「マスターコントロールメニュー」と呼びます。

  マスターコントロールメニューについてはこの後の「マスターコントロールメニュー」を参照してください。

EXPRESSBUILDERトップメニュー

EXPRESSBUILDERトップメニューはハードウェアおよびOS（オペレーティングシステム）のセットアップとインストールをするときに使用します。

BIOSの設定を間違えると、CD-ROMから起動しない場合があります。EXPRESSBUILDERを起動できない場合は、BIOSセットアップユーティリティを起動して「Boot」メニューでDVD-ROM ドライブの起動順位を一番に設定してください。**「Boot（190ページ）」を参照してください。**

起動方法

次の手順に従ってEXPRESSBUILDERトップメニューを起動します。

1. 周辺装置、本体の順に電源をONにする。
2. 本体のDVD-ROMドライブへ「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットする。
3. CD-ROMをセットしたら、リセットする（<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す）か、電源をOFF/ONして本体を再起動する。

   CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

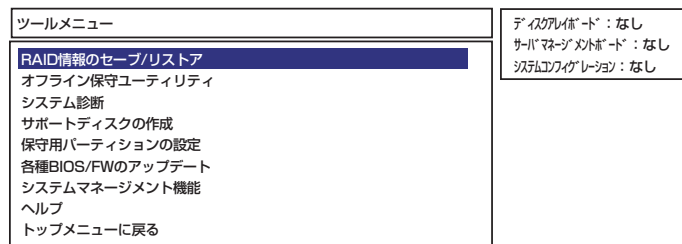
EXPRESSBUILDERが起動すると、以下のようなEXPRESSBUILDERトップメニューが現れます。

シームレスセットアップ

「シームレスセットアップ」とは、ハードウェアの内部的なパラメータや状態の設定からOS(Windows Server 2003)、各種ユーティリティのインストールまでを添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを使って切れ目なく(シームレスで)セットアップできるExpress5800シリーズ独自のセットアップ方法です。
購入時の状態と異なるハードディスクのパーティション設定で使用する場合やOSを再インストールする場合は、シームレスセットアップを使用すると煩雑なセットアップをこの機能が代わって行います。
「シームレスセットアップ」を選択すると、OSのインストールを開始します。

セットアップを開始したら、完了するまで本体の電源をOFFにしないでください。また、セットアップパラメータFDを使用してインストールする場合は、指示があるまでセットアップパラメータFDを取り出さないでください。

ツールメニュー

ツールメニューは、EXPRESSBUILDERに収められている各種ユーティリティを個別で起動し、オペレータが手動でセットアップを行います。「シームレスセットアップ」では自動設定できない設定や、より詳細に設定したい場合などに使用してください。
また、システム診断やサポートディスクの作成、保守用パーティションの設定を行う場合も、ツールメニューを使用します。次にツールメニューにある項目について説明します。

- **RAID情報のセーブ/リストア**

  ディスクアレイシステムのコンフィグレーション情報をフロッピーディスクに保存(セーブ)、または、フロッピーディスクから復元(リストア)することができます。

  – RAID情報のセーブ

    ディスクアレイコントローラのコンフィグレーション情報をフロッピーディスクに保存します。フォーマット済みのフロッピーディスクを用意してください。RAIDの設定や変更を行った時は、必ず本機能を使用してコンフィグレーション情報をセーブしてください。

  – RAID情報のリストア

    フロッピーディスクに保存されたコンフィグレーション情報をディスクアレイコントローラ上に復元します。「RAID情報のセーブ」で作成したフロッピーディスクを用意してください。コンフィグレーション情報が万一破壊された場合や、誤ってコンフィグレーション情報を変更してしまった場合は、本機能を使用してコンフィグレーション情報をリストアしてください。

この機能をサポートしていないディスクアレイコントローラもあります。その場合、このメニューは表示されません。

この機能は保守用です。保守以外の目的で操作しないでください。誤った操作を行うとデータを損失するおそれがあります。

- **オフライン保守ユーティリティ**

  オフライン保守ユーティリティとは、障害発生時に障害原因の解析を行うためのユーティリティです。詳細は285ページまたはオンラインヘルプを参照してください。

- **システム診断**

  本体上で各種テストを実行し、本体の機能および本体と拡張ボードなどとの接続を検査します。システム診断を実行すると、本体に応じてシステムチェック用プログラムが起動します。252ページを参照してシステムチェック用プログラムを操作してください。

- **サポートディスクの作成**

  サポートディスクの作成では、EXPRESSBUILDER内のユーティリティをフロッピーディスクから起動するための起動用サポートディスクやオペレーティングシステムのインストールの際に必要となるサポートディスクを作成します。なお、画面に表示されたタイトルをフロッピーディスクのラベルへ書き込んでおくと、後々の管理が容易です。

  サポートディスクを作成するためのフロッピーディスクはお客様でご用意ください。

  - Windows Server 2003 x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER

    Windows Server 2003 x64 Editionsをインストールするときに必要となるサポートディスクを作成します。

  - Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER

    Windows Server 2003をインストールするときに必要となるサポートディスクを作成します（「シームレスセットアップ」でインストールする場合は必要ありません）。

  - ROM-DOS起動ディスク

    ROM-DOSシステムの起動用サポートディスクを作成します。

－ オフライン保守ユーティリティ

オフライン保守ユーティリティの起動用サポートディスクを作成します。

－ システムマネージメント機能

BMC（Baseboard Management Controller）による通報機能や管理用PCからのリモート制御機能を使用するための設定を行うプログラムの起動用サポートディスクを作成します。

● **保守用パーティションの設定**

ここでは、保守用パーティションに対するメンテナンスをすることができます。保守用パーティションが作成されていないときは「保守用パーティションの作成」と「FDISKの起動」以外の項目は表示されません。保守用パーティションの詳細については、10ページを参照してください。

「保守用パーティションの設定」の各項目を実行している間は、リセットしたり、電源をOFFにしたりしないでください。

－ 保守用パーティションの作成

保守用として内蔵ハードディスク上に領域を確保し、続けて各種ユーティリティのインストールを行います。すでに保守用パーティションが確保されている場合は、各種ユーティリティのインストールを行うことができます。

－ 各種ユーティリティのインストール

各種ユーティリティ（システム診断/システムマネージメント機能/オフライン保守ユーティリティ）を、CD-ROMから保守用パーティションへインストールします。インストールされたユーティリティは、オフライン保守ユーティリティをハードディスクから起動した場合に使用することができます。

－ 各種ユーティリティの更新

各種ユーティリティ（システム診断/オフライン保守ユーティリティ）を、フロッピーディスクから保守用パーティションへコピーします。各種ユーティリティがフロッピーディスクでリリースされたときに実行してください。それ以外では、本項目は使用しないでください。

－ FDISKの起動

ROM-DOSシステムのFDISKコマンドを起動します。パーティションの作成/削除などができます。

- **各種BIOS/FWのアップデート**

  8番街で配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」を使用して、本装置のBIOS/FW（ファームウェア）をアップデートすることができます。「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」については、次のホームページに詳しい説明があります。

  『8番街』：http://nec8.com/

  各種BIOS/FWのアップデートを行う手順は配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」に含まれる「README.TXT」に記載されています。記載内容を確認した上で、記載内容に従ってアップデートを行ってください。
  「README.TXT」はWindowsのメモ帳などで読むことができます。

BIOS/FWのアップデートプログラムの動作中は本体の電源をOFFにしないでください。アップデート作業が途中で中断されるとシステムが起動できなくなります。

- **システムマネージメント機能**

  EXPRESSSCOPEエンジンによる通報機能や管理用PCからのリモート制御機能を使用するための設定を行います。

- **ヘルプ**

  EXPRESSBUILDERの各種機能に関する説明を表示します。

- **トップメニューに戻る**

  EXPRESSBUILDERトップメニューを表示します。

コンソールレスメニュー

EXPRESSBUILDERは、本体にキーボードなどのコンソールが接続されていなくても各種セットアップを管理用コンピュータ（管理PC）から遠隔操作することができる「コンソールレス」機能を持っています。

本装置以外のコンピュータおよび他のExpress5800シリーズに使用しないでください。故障の原因となります。

起動方法

次の2通りの方法があります。

- LAN接続された管理PCから実行する
- ダイレクト接続（COM B）された管理PCから実行する

起動方法の手順については、「DianaScope」オンラインドキュメントを参照してください。

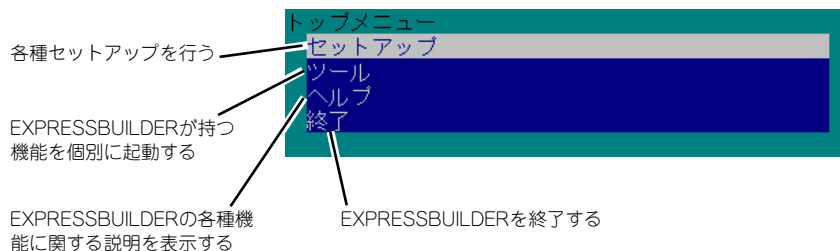
- **BIOSセットアップユーティリティのBootメニューで起動順序を変えないでください。DVD-ROMドライブが最初に起動するようになっていないと使用できません。**
- **LAN接続は標準LANポートのみ使用可能です。**
- **ダイレクト接続はシリアルポートBのみ使用可能です。**
- **コンソールレスで本装置を遠隔操作するためには、操作する管理PCとの通信方法や詳細な設定を保存した「設定情報ファイル」を格納したフロッピーディスクを必ずフロッピーディスクドライブに挿入しておく必要があります。「設定情報ファイル」はツールメニューのシステムマネージメント機能や、DianaScope Configurationで作成することができます。「設定情報ファイル」はフロッピーディスクのルートディレクトリに必ず以下のファイル名で作成してください。**

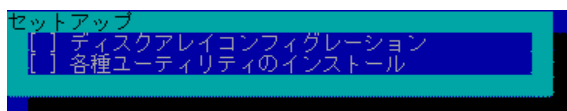
  <設定情報ファイル名>: CSL_LESS.CFG
- **BIOSセットアップユーティリティを通常の終了方法以外の手段（電源OFFやリセット）で終了するとリダイレクションが正常にできない場合があります。設定ファイルで再度設定を行ってください。**

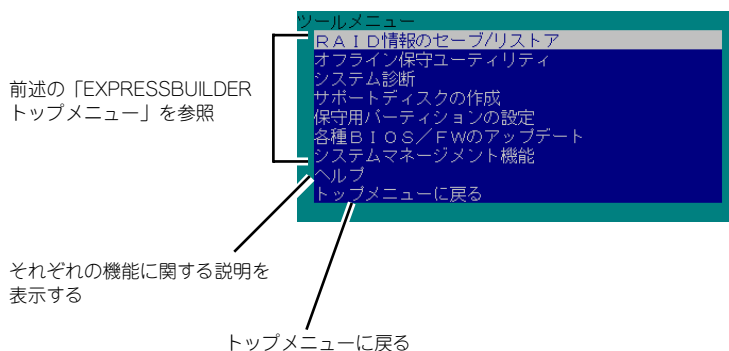
BIOS設定情報は以下の値にセットされます。

- LAN Controller:［Enabled］
- Serial Port A:［Enabled］
- Serial Port A I/O Address:［3F8］
- Serial Port A Interrupt:［IRQ 4］
- Serial Port B:［Enabled］
- Serial Port B I/O Address:［2F8］
- Serial Port B Interrupt:［IRQ 3］
- BIOS Redirection Port:［Serial Port B］
- Baud Rate:［19.2K］
- Flow Control:［CTS/RTS］
- Console Type:［PC ANSI］

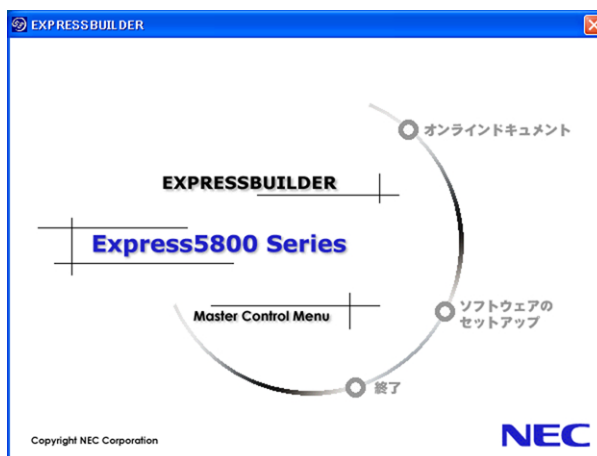
トップメニュー

管理PCの画面上に表示されるトップメニューは次のとおりです。

セットアップ

本体のハードウェア構成をチェックして、ディスクアレイコンフィグレーションおよび保守用パーティションの設定を自動的に行います。

ツールメニュー

トップメニューでツールを選択すると以下のメニューが表示されます。ツールメニューにある項目は、「EXPRESSBUILDERトップメニュー」の「ツールメニュー」の項目の中からコンソールレスで使用できるもののみがあげられています。それぞれの機能については、前述の「EXPRESSBUILDERトップメニュー」を参照してください。

「EXPRESSBUILDERトップメニュー」の「ツールメニュー」にある機能と比較すると「システム診断」の内容や操作方法（詳しくは、252ページを参照してください）が異なります。

マスターコントロールメニュー

Windows(Windows 95以降、またはWindows NT4.0以降)が動作しているコンピュータ上で添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットすると、「マスターコントロールメニュー」が自動的に起動します。

システムの状態によっては自動的に起動しない場合があります。そのような場合は、CD-ROM上の次のファイルをエクスプローラ等から実行してください。

- 32ビット版Windowsの場合
  <CD-ROMのドライブレター>:¥MC¥1ST.EXE
- Windows x64 Editionsの場合
  <CD-ROMのドライブレター>:¥MC¥1ST_X64.EXE

マスターコントロールメニューからは、Windows上で動作する各種バンドルソフトウェアのインストールやオンラインドキュメントを参照することができます。

オンラインドキュメントの中には、PDF形式の文書で提供されているものもあります。このファイルを参照するには、あらかじめAdobeシステムズ社製のAdobe Readerがインストールされている必要があります。Adobe Readerがインストールされていないときは、あらかじめAdobeシステムズ社のインターネットサイトよりAdobe Readerをインストールしてください。

マスターコントロールメニューの操作は、ウィンドウに表示されているそれぞれの項目をクリックするか、右クリックして現れるショートカットメニューを使用してください。また、一部のメニュー項目は、メニューが動作しているシステム・権限で実行できないとき、グレイアウト表示され選択できません。適切なシステム・権限で実行してください。

CD-ROMをドライブから取り出す前に、マスターコントロールメニューおよびメニューから起動されたオンラインドキュメント、各種ツールは終了させておいてください。

ExpressPicnic

「ExpressPicnic®」は、EXPRESSBUILDERのシームレスセットアップで使用する「セットアップパラメータFD」を作成するツールです。

EXPRESSBUILDERとExpressPicnicで作成したセットアップパラメータFDを使ってセットアップをすると、いくつかの確認のためのキー入力を除きOSのインストールから各種ユーティリティのインストールまでのセットアップを自動で行えます。また、再インストールのときに前回と同じ設定でインストールすることができます。「セットアップパラメータFD」を作成して、EXPRESSBUILDERからセットアップすることをお勧めします。フロッピーディスクをご使用の場合は、別途USBフロッピーディスクドライブをご用意ください。

Microsoft Windows Server 2003 x64 Editions用の「セットアップパラメータFD」は作成できません。

「セットアップパラメータFD」がなくてもWindows Server 2003をインストールすることはできます。また、「セットアップパラメータFD」は、EXPRESSBUILDERを使ったセットアップの途中で修正・作成することもできます。

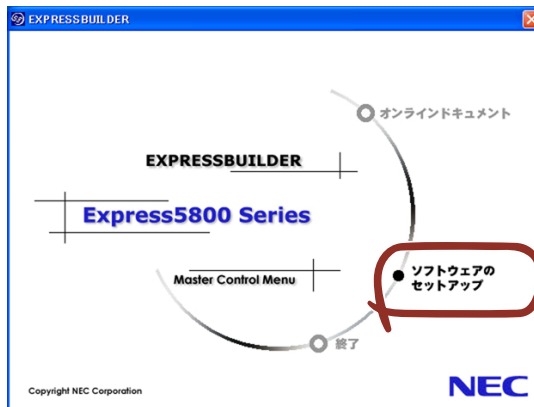
セットアップパラメータFDの作成

OSをインストールするために必要なセットアップ情報を設定し、「セットアップパラメータFD」を作成します。以下の手順に従ってください。

ExpressPicnicはPC98-NXシリーズ・PC-9800シリーズ・PC-AT互換機で動作します。

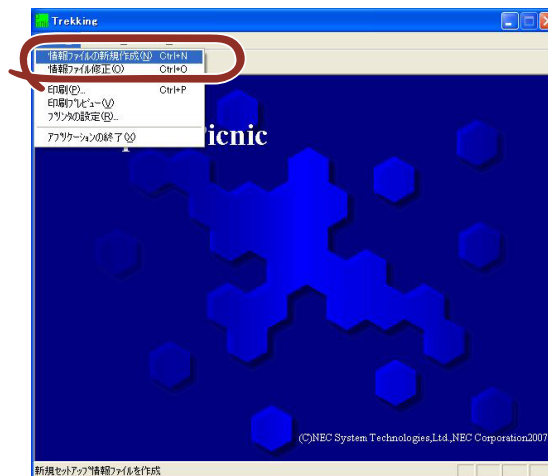
1. OSを起動する。
2. 添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD/DVD-ROMドライブにセットする。

   マスターコントロールメニューが表示されます。

3. 画面上で右クリックするか、［ソフトウェアのセットアップ］を左クリックする。

4. [ExpressPicnic]をクリックする。

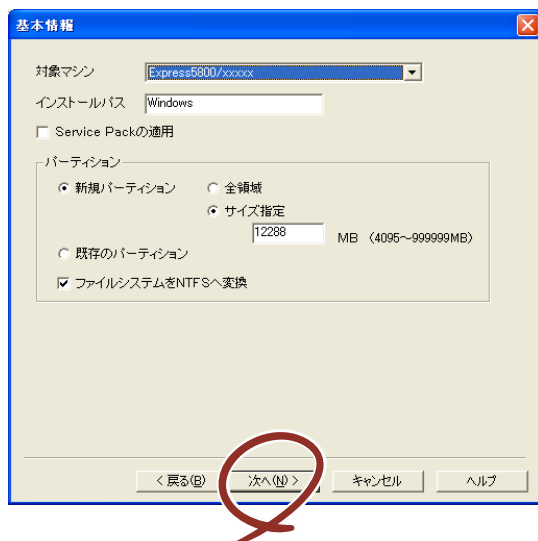
ExpressPicnicウィンドウが表示されます。

5. ［ファイル］メニューの［情報ファイルの新規作成］をクリックする。

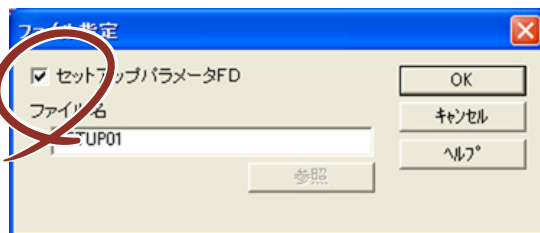
［ディスクの設定］ダイアログボックスが表示されます。

6. 各項目を設定し、［OK］をクリックする。

［基本情報］ダイアログボックスなど、セットアップ情報を設定するダイアログボックスが順に表示されます。

7. メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、[次へ] をクリックする。

セットアップ情報の設定が完了すると、[ファイル指定] ダイアログボックスが表示されます。

[キャンセル] をクリックすると設定した内容が消えてしまいます。

使用者名と会社名を日本語で設定する場合は、ExpressPicnicで設定してください。シームレスセットアップ中に日本語で入力することはできません。ただし、シームレスセットアップを使ったインストールを完了後、ログオンのときに表示されるポップアップ画面で再入力し直すことができます。

8. [セットアップパラメータFD] チェックボックスがオンになっていることを確認し、[ファイル名] ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。

9. 1.44MBでフォーマット済みのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[OK] をクリックする。

「セットアップパラメータFD」が作成できました。「セットアップパラメータFD」はWindows Server 2003をインストールするときに使用します。ラベルを貼り大切に保管してください。

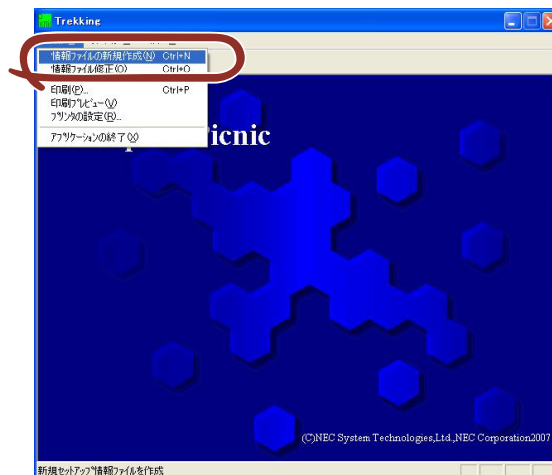
- 各項目の設定内容についてはヘルプを参照してください。
- 既存の情報ファイル（セットアップパラメータFD）を修正する場合は、ExpressPicnicウィンドウの［情報ファイルの修正］をクリックしてください。詳しくはヘルプを参照してください。

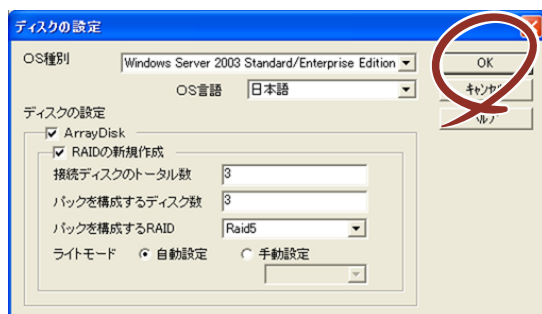
追加アプリケーションのインストール

「EXPRESSBUILDER」CD-ROMでサポートしていないアプリケーションを追加でインストールする場合は、以下の手順に従って「セットアップパラメータFD」を作成してください。

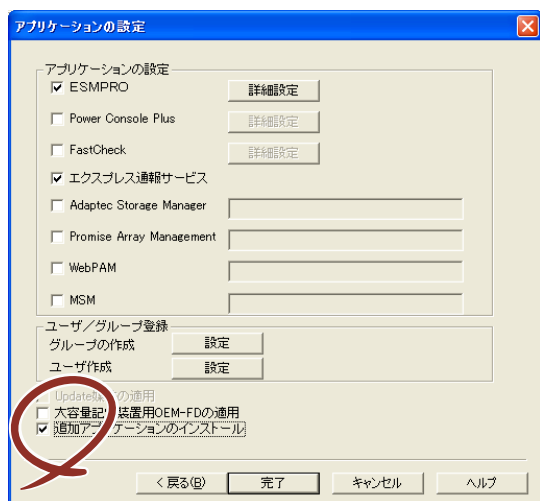
追加でインストールするアプリケーションは、シームレスセットアップに対応している必要があります。

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる（226ページ参照）。
2. ［ファイル］メニューの［情報ファイルの新規作成］をクリックする。

   ［ディスクの設定］ダイアログボックスが表示されます。

3. 各項目を設定し、[OK] をクリックする。

   [基本情報] ダイアログボックスなど、セットアップ情報を設定するダイアログボックスが順に表示されます。

4. メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、[次へ] をクリックする。

[キャンセル] をクリックすると入力した内容が消えてしまいます。

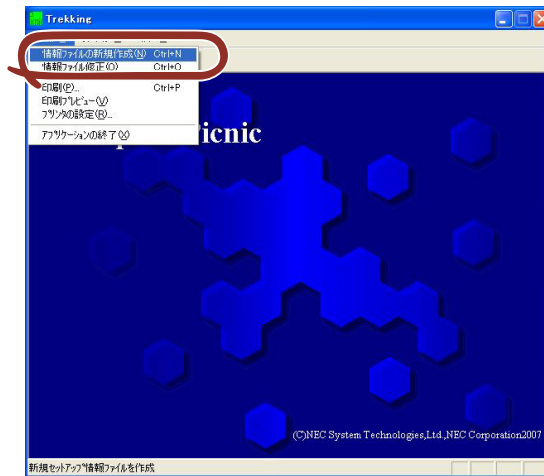
5. [アプリケーションの設定] が表示されたら、[追加アプリケーションのインストール] にチェックを入れる。

6. [ファイル指定] ダイアログボックスが表示されたら、[セットアップパラメータFD] チェックボックスがオンになっていることを確認し、[ファイル名] ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。

7. 1.44MBでフォーマット済みのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[OK] をクリックする。

大容量記憶装置ドライバのインストール

シームレスセットアップに対応しているオプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、以下の手順に従って「セットアップパラメータFD」を作成してください。

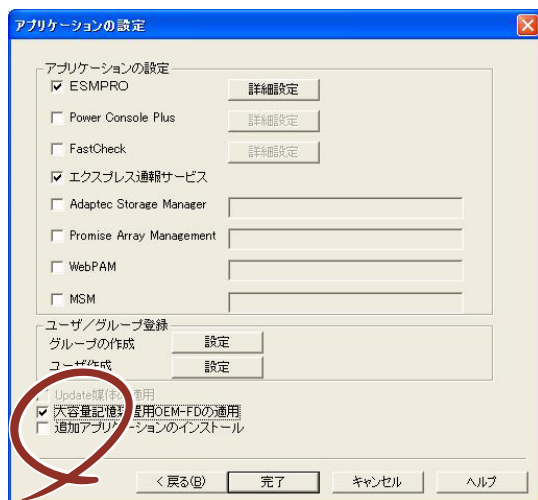
1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる（226ページ参照）。
2. ［ファイル］メニューの［情報ファイルの新規作成］をクリックする。

   ［ディスクの設定］ダイアログボックスが表示されます。

3. 各項目を設定し、［OK］をクリックする。

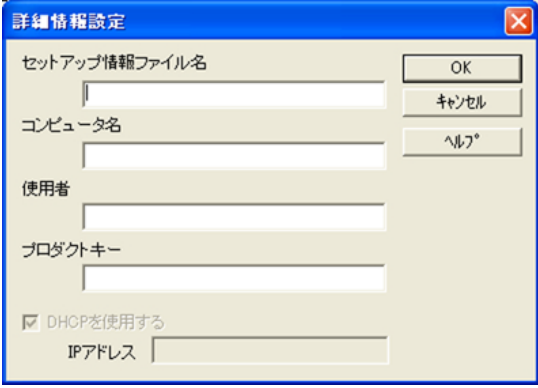
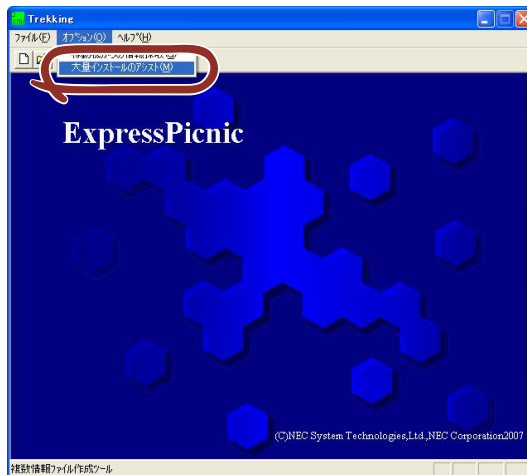
   ［基本情報］ダイアログボックスなど、セットアップ情報を設定するダイアログボックスが順に表示されます。

4. メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、［次へ］をクリックする。

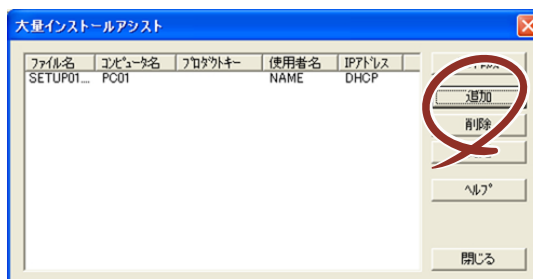
［キャンセル］をクリックすると入力した内容が消えてしまいます。

5. ［アプリケーションの設定］が表示されたら、［大容量記憶装置用OEM-FDの適用］にチェックを入れる。

6. ［ファイル指定］ダイアログボックスが表示されたら、［セットアップパラメータFD］チェックボックスがオンになっていることを確認し、［ファイル名］ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。
7. 1.44MBでフォーマット済みのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、［OK］をクリックする。

大量インストール

ベースとなるセットアップ情報ファイルを指定し、マシンごとに変更する必要のあるパラメータのみ修正して、複数のセットアップ情報ファイルを作成します。

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる（226ページ参照）。
2. ［オプション］メニューの［大量インストールのアシスト］をクリックする。

3. ［ファイルを開く］画面でベースとなるセットアップ情報ファイルを選択する。

   ベースとなるセットアップ情報ファイルの設定値がリストの一番上の欄に表示されます。

4. ［追加］をクリックする。

5. ベースとなるセットアップ情報ファイルから変更するパラメータを設定する。

6. ［OK］をクリックする。

   リストに追加した情報が表示されます。

7. ファイル名を選択し、［FD作成］をクリックする。

   選択したファイル名のセットアップパラメータFDを作成します。

本体用バンドルソフトウェア

本体にバンドルされているソフトウェアの紹介およびインストールの方法について簡単に説明します。詳細はオンラインドキュメントをご覧ください。

ESMPRO/ServerAgent（Windows版）

ESMPRO/ServerAgent（Windows版）は本装置にインストールする本体監視用アプリケーションです。
EXPRESSBUILDERのシームレスセットアップで自動的にインストールすることができます。ここでは個別にインストールする場合に知っておいていただきたい注意事項とインストールの手順を説明します。

運用上の注意事項については、添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgent（Windows版）インストレーションガイド」に記載しています。ご覧ください。

インストール前の準備

ESMPRO/ServerAgent（Windows版）を動作させるためには対象OSのTCP/IPとTCP/IP関連コンポーネントのSNMPの設定が必要です。

- **ネットワークサービスの設定**

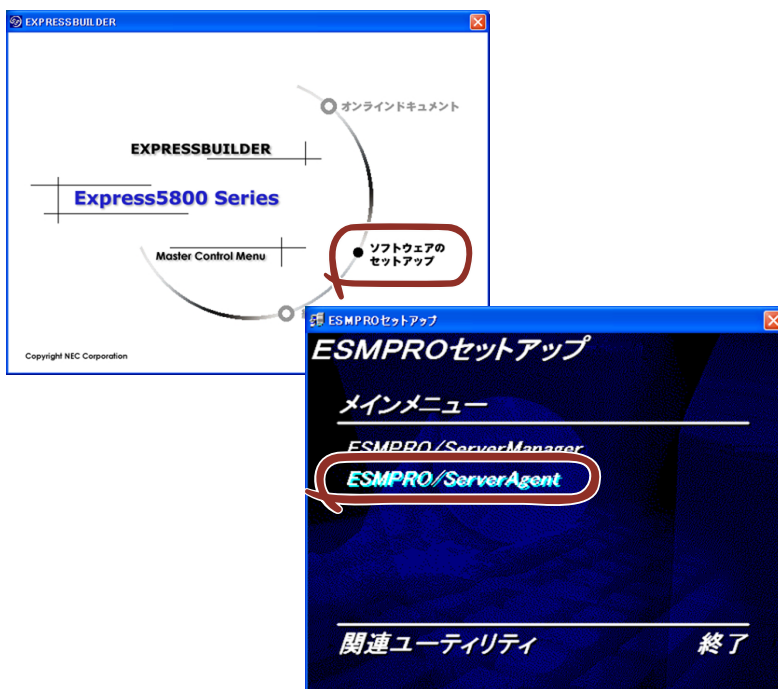
  プロトコルはTCP/IPを使用してください。TCP/IPの設定についてはスタートメニューから起動する「ヘルプ」を参照してください。

- **SNMPサービスの設定**

  コミュニティ名に「public」、トラップ送信先に送信先IPアドレスを使います。ESMPRO/ServerManager側の設定で受信するトラップのコミュニティをデフォルトの「*」から変更した場合は、ESMPRO/ServerManager側で新しく設定したコミュニティ名と同じ名前を入力します。

インストール

ESMPRO/ServerAgent（Windows版）のインストールは添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを使用します。本装置のOSが起動した後、Autorunで表示されるメニューから［ソフトウェアのセットアップ］－［ESMPRO］－［ESMPRO/ServerAgent］の順にクリックしてください。以降はダイアログボックス中のメッセージに従ってインストールしてください。

重要

アドミニストレータの権限を持ったアカウントでシステムにログインしてください。

ネットワーク上のCD-ROMドライブから実行する場合は、ネットワークドライブの割り当てを行った後、そのドライブから起動してください。エクスプローラのネットワークコンピュータからは起動しないでください。

アップデートインストールについて
ESMPRO/ServerAgentがすでにインストールされている場合は、次のメッセージが表示されます。

ESMPRO/ServerAgentが既にインストールされています。

メッセージに従って処理してください。

インストール後の確認

ESMPRO/ServerAgent（Windows版）をインストールした後に次の手順で正しくインストールされていることを確認してください。

1. 本装置を再起動する。
2. イベントログを開く。
3. イベントログにESMPRO/ServerAgent（Windows版）の監視サービスに関するエラーが登録されていないことを確認する。

   エラーが登録されている場合は、正しくインストールされていません。もう一度はじめからインストールし直してください。

MegaRAID Storage Manager™ （サーバ）

MegaRAID Storage Manager™(以下MSMと略記します)は、LSI Embedded MegaRAID™、N8103-90/91/99ディスクアレイコントローラ、LSI MegaRAID™ SAS PCI EXPRESS™ ROMBの監視・管理を行うアプリケーションです。MSMを使用することで、システム運用中のアレイの保守やイベント監視による通報を行うことができます。
MSMのインストールおよび操作方法については、添付のEXPRESSBUILDER CD-ROM内のオンラインドキュメント「MegaRAID Storage Manager™ ユーザーズガイド」を参照してください。この説明書には運用にあたって注意すべきことも掲載しています。運用開始前に必ずお読みください。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にMSMがあらかじめインストールされている場合があります。この場合、別途通報監視についての設定などが必要な場合があります。
「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「MegaRAID Storage Manager™ユーザーズガイド」を参照し、設定してください。

シームレスセットアップを使ったセットアップ

MSMは添付の「EXPRESSBUILDER」に収められている自動インストールツール「シームレスセットアップ」を使ってインストールできます。シームレスセットアップを開始すると、アプリケーションを設定するダイアログボックスが表示されます。ここで「MSM」を選択してください。

手動インストール(新規インストール)

手動でMSMをインストールする場合は「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「MegaRAID Storage Manager™ユーザーズガイド」を参照してください。

Power Console Plus（サーバ）

Power Console PlusはLSI製ディスクアレイコントローラシステムを構築しているWindowsサーバの監視・管理用のアプリケーションです。
Power Console Plusの動作環境や操作手順については、EXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「Power Console Plusユーザーズガイド」を参照してください。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にPower Console Plusがあらかじめインストールされている場合があります。このままでも使用できますが、後述の「Power Console Plus（サーバ）の環境設定」に記載の内容の設定を行うことをお勧めします。また、リモートからの監視をする場合は別途、Power Console Plus（管理PC）をインストールしてください。

シームレスセットアップを使ったセットアップ

Power Console Plusは添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに収められている自動インストールツール「シームレスセットアップ」を使ってインストールできます。
シームレスセットアップを開始すると、アプリケーションを設定するダイアログボックスが表示されます。ここで「Power Console Plus」を選択してください。なお、シームレスセットアップ後は後述の環境設定をしてください。また、リモートからの監視をする場合は別途、Power Console Plus（管理PC）をインストールしてください。

手動インストール（新規インストール）

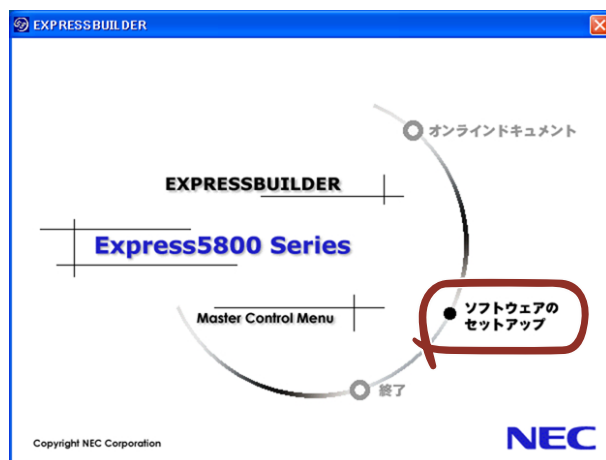
手動でインストールする場合は以下の説明を参考にしてインストールをしてください。インストールに関する詳しい手順と操作方法については「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内にあるオンラインドキュメント「Power Console Plusユーザーズガイド」を参照してください。

Power Console Plus（サーバ）をインストールする前に

Power Console Plus（サーバ）をインストールするときは、次に示す準備をしておく必要があります。

- LSI製のディスクアレイコントローラがシステムに取り付けられていること
- LSI製のディスクアレイコントローラのドライバが組み込まれていること
- WindowsのSNMPサービスが組み込まれていること
- WindowsのTCP/IPの設定が終了していること
- EXPRESSBUILDERを使用したシステムのアップデートが終了していること
- Administratorsグループでログオンされていること
- Internet Explorer 5.5以降がインストールされていること

Power Console Plus（サーバ）のインストール手順

Power Console Plus（サーバ）のインストールは添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを使用します。WindowsではEXPRESSBUILDERをDVD-ROMドライブにセット後、Autorunで表示されるメニューから［ソフトウェアのセットアップ］－［ESMPRO］－［関連ユーティリティメニューへ］－［Power Console Plus］の順にクリックします。

ここで表示されるセットアップオプションの選択でインストールするコンポーネントとして「サーバ」または「サーバ+管理サーバ」をチェックし、［次へ］をクリックしてください。以降はダイアログボックスのメッセージに従ってインストールしてください。なお、インストール後は後述の環境設定をしてください。また、リモートからの監視をする場合は別途、Power Console Plus（管理PC）をインストールしてください。

上記記述の管理サーバはネットワークで接続されたすべてのサーバおよび管理PCを管理するコンピュータとしてネットワーク内に1つ定義します。

Power Console Plus（サーバ）の環境設定

- **HOSTSファイルの設定**

  ネットワーク経由で制御する場合はすべてのサーバ+管理サーバと管理PCのIPアドレスとホスト名を登録してください。サーバ内でのみ制御する場合はこの作業は不要です。

- **REGSERV.DATの設定**

  ネットワーク経由で制御する場合はサーバ+管理サーバのホスト名をすでにある「localhost」の設定と置換してください。サーバ内でのみ制御する場合はこの作業は不要です。

- **パスワードファイルのアクセス権設定**

  「c:¥Winnt¥System32¥drivers¥etc¥raidpass.val」（c:¥Winntは、Windowsの一般的なインストール先フォルダです）をセキュリティ保持の観点からNTFSファイルアクセス権をAdministrator権限などに変更してください。

Web-based Promise Array Manager

Web-based Promise Array Manager(以下、「WebPAM」と呼ぶ)は、N8103-101のRAIDシステムの監視・管理を行うアプリケーションです。
WebPAMを使用することで、システム運用中のアレイ保守やイベント監視による通報を行うことができます。
WebPAMのインストールおよび操作方法については、添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内のオンラインドキュメント「Web-based Promise Array Managerユーザーズガイド」を参照してください。この説明書には運用にあたって注意すべきことも掲載しています。運用開始前に必ずお読みください。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にWebPAMがあらかじめインストールされている場合があります。
この場合、この他にInternet Explorerの設定や通報監視についての設定などが必要な場合があります。

「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内のオンラインドキュメント「Web-based Promise Array Managerユーザーズガイド」の付録を参照し、設定してください。

シームレスセットアップを使ったセットアップ

WebPAMは添付の「EXPRESSBUILDER」に収められている自動インストールツール「シームレスセットアップ」を使ってインストールできます。
シームレスセットアップを開始すると、アプリケーションを設定するダイアログボックスが表示されます。ここでWebPAMを選択してください。

手動インストール（新規インストール）

手動でWebPAMをインストールする場合は「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内のオンラインドキュメント「Web-based Promise Array Managerユーザーズガイド」を参照してください。

エクスプレス通報サービス

エクスプレス通報サービスに登録することにより、システムに発生する障害情報(予防保守情報含む)を電子メールやモデム経由で保守センターに自動通報することができます。
本サービスを使用することにより、システムの障害を事前に察知したり、障害発生時に迅速に保守を行ったりすることができます。

セットアップに必要な契約

エクスプレス通報サービスを有効にするには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してください。

- **本体のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスの契約**

  本体のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスのみの契約がお済みでないと、エクスプレス通報サービスはご利用できません。契約内容の詳細については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

- **通報開局FD**

  契約後送付される通報開局FDが必要となります。まだ到着していない場合、通報開局FDが到着してから、セットアップを行ってください。

エクスプレス通報サービスのセットアップについては、「オンラインドキュメント」を参照してください。

管理PC用バンドルソフトウェア

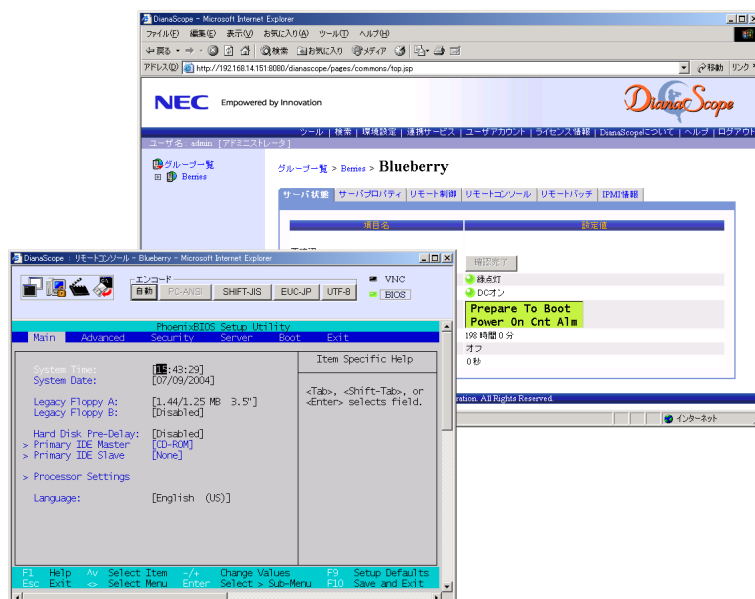
装置をネットワーク上から管理するための「管理PC」を構築するために必要なバンドルソフトウェアについて説明します。

ESMPRO/ServerManager

ESMPRO/ServerAgentがインストールされたコンピュータをネットワーク上の管理PCから監視・管理するには、本体にバンドルされているESMPRO/ServerManagerをお使いください。管理PCへのインストール方法や設定の詳細についてはオンラインドキュメントまたはESMPROのオンラインヘルプをご覧ください。

ESMPRO/ServerManagerの使用にあたっての注意事項や補足説明がオンラインドキュメントで説明されています。添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerManagerインストレーションガイド」を参照してください。

DianaScope

DianaScope は Express5800 シリーズをリモート管理するためのソフトウェアです。DianaScopeの機能やインストール方法についての詳細はオンラインドキュメントを参照してください。

本製品においてDianaScopeを使用するためにはサーバライセンスが必要です。本装置には以下のサーバライセンスが添付されています。

- UL1198-001 SystemGlobe DianaScope Additional Server License(1)
  管理対象サーバを1台管理するためのライセンス

MegaRAID Storage Manager^{TM}（管理PC）

MegaRAID Storage Manager^{TM}(以下MSMと略記します)をネットワーク経由で使用する場合にインストールします。
MSMのインストールおよび操作方法については、添付のEXPRESSBUILDER CD-ROM内のオンラインドキュメント「MegaRAID Storage Manager^{TM}ユーザーズガイド」を参照してください。この説明書には運用にあたって注意すべきことも掲載しています。運用開始前に必ずお読みください。

Power Console Plus（管理PC）

Power Console Plusをネットワーク経由でサーバを管理する場合にインストールします。Power Console Plusの動作環境や操作手順については、EXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「Power Console Plus TMユーザーズガイド」を参照してください。

以下の説明を参考にしてPower Console Plus（管理PC）を管理PCにインストールしてください。インストールに関する詳しい手順と操作方法についてはEXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「Power Console Plus TMユーザーズガイド」を参照ください。

Power Console Plus（管理PC）をインストールする前に

Power Console Plus（管理PC）をインストールするときは、次に示す準備をしておく必要があります。

- WindowsのTCP/IPの設定が終了していること
- EXPRESSBUILDERを使ったシステムのアップデートが終了していること（Express5800シリーズにインストールする場合）
- Administratorsグループでログオンされていること
- Windows NT 4.0の場合、サービスパック6aが適用されていること
- Internet Explorer 5.5以降がインストールされていること

Power Console Plus（管理PC）のインストール手順

Power Console Plus（管理PC）のインストールは添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを使用します。「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブにセット後、Autorunで表示されるメニューから［ソフトウェアのセットアップ］－［ESMPRO］－［関連ユーティリティメニュー］－［Power Console Plus］の順にクリックします。

ここで表示されるセットアップオプションの選択でインストールするコンポーネントとして「管理PC」をチェックし、［次へ］をクリックしてください。
以降はダイアログボックスのメッセージに従ってインストールしてください。

上記記述の管理サーバはネットワークで接続されたすべてのサーバおよび管理PCを管理するコンピュータとしてネットワーク内に1つ定義します。

Power Console Plus（管理PC）の環境設定

- **HOSTSファイルの設定**

  すべてのサーバ+管理サーバと管理PCのIPアドレスとホスト名を登録してください。

- **REGSERV.DATの設定**

  サーバ+管理サーバのホスト名をすでにある「localhost」の設定と置換してください。